老人の医療・福祉 110番を開設

11月より電話相談を行っています。

（詳細は３面に）

石川保険医新聞

発行所
石川県保険医協会
金沢市尾張町1丁目9番11号
尾張町レジデンス２F
電話（0762）22—5373番
発行人 後藤田博之
印刷所 ユーアイ印刷
（会費月額 3,800円）

保険医療の後退を許さない

協会初のシンポジウムを開く

厚生省の医療保険抜本改悪をめぐって，市民210名と共に
シンポジウムを開催 （11月29日，県教育会館３階ホール）

厚生行政を正す署名 八千六百を越す

健保本人の二割負担、入院時給食費一日六百円負担、一部薬剤の保険適用除外など医療保険制度全般にわたる改悪が臨調・行革路線に沿って具体化されようとしています。

今回の改悪は、戦後、医療担当者と国民が築いてきた医療保障の根幹にふれるものであり、医師にも国民にも大きな負担を強いるものであります。

石川県保険医協会では厚生省が八月に医療保険改革案を発表して以来、改悪の狙いと問題点につき、協会会員はもとより、患者、住民に知らせるため、次のような取り組みをすすめてきました。

①県下全保険医に呼びかけて「厚生行政をただす請願」署名の推進、一三〇医療機関より署名協力（会員の二九・六％）

②石川県評、同盟、健保連県支部への申し入れ、県内二五〇団体に署名協力の申し入れ。

③九月及び十二月の県議会、全市町村議会に意見書採択を求めて陳情。

④スライド「生命がうばわれる」を購入し、健康なんでも相談会場など九会場にて上映、五三八名が鑑賞。

⑤九月に二つの講演会（講師＝佐分利輝彦氏、細田健二氏）を開催。いずれも八十名余の参加で盛会。

⑥佐分利、細田両議演をふまえて、理事討論会を開催。改革案の狙いと運動対策を協議。

この他、労働組合の学習会の講師要請や集会メッセージ依頼にも積極的に応えてきました。

こうした協会の申し入れに多くの労働組合や老人クラブ等から賛同が寄せられ、国会請願署名も八千六百名を越すかってない勢いで集まっています。

熱気あふれたシンポジウム

協会ではこのような県内の運動を盛り上げ、反対世論を結集していくために、署名協力の団体等に呼びかけ、十一月二十九日、県教育会館にてシンポジウムを開きました。

当日は医師、医療従事者、患者会、労働組合などから二一〇名もの参加があり、主催した協会自身が大いに勇気づけられました。

スライド「生命がうばわれる」で改革案の要点を紹介した後、社会保障研究者の立場から小川政亮金大教授、長期療養患者の立場から武部友勝県腎友会会長、家計を預かる主婦の立場から今井歌子さん、医師の立場から平松昌司協会副会長がそれぞれ報告。参加者を交えた討論では、「開業医の団体がこのような集会を開くこと自体に感銘した」「厚生省と医師会の関係は一体どうなっているのか？」「保険医協会と医師会の違いは何か」「開業医はもうけすぎである。〝薬づけ〟、〝検査づけ〟医療をどうみるのか」「改革案の背景は何なのか」「来年度の予算編成期を迎えて、われわれは何ができるのか、何をしなければならないのか」など多方面から意見が寄せられ、熱気に満ちた集会になりました。

保険医協会では今後もこのようなシンポジウムや住民との対話を重ねて、住民・患者との理解を深めていくことにしています。

◎シンポジウムの報告集は一月中に作成致します。

持論

医療保険抜本改悪の狙い

「患者の二割の自己負担」をはじめとする政府の一連の医療費抑制策の真の狙いを、われわれは、はっきりと認識すべきである。

その第一は受診抑制である。現在の医療保険は国保で四五％、政管健保で約16％の国庫負担という税金でまかなわれている。受診抑制で総医療費が減少すれば国庫負担も減少する。

第二の狙いは、国民からの要望の強い退職者医療制度の創設に当たり、国庫負担を一切出さずに、退職者本人と健保組合の拠出金によりまかなおうとしていることである。

これでは医療に対する国の責任、特に長年働いてきた人達への医療保障を完全に放棄したものと云わねばならない。

要するに世界各国の政府は国庫負担を減少させる目的で医療費増大を社会悪として訴え、医療費抑制策として医療を破壊しつつあるのが現状で、それに対し国民は民間保険などにより独力で医療を立て直さざるをえなくなっている。

健康は国民の幸福の基礎である。それを守る立場にあるわれわれは正しい医療を破壊されないように行動しなければならない。

石川の歳時記

還暦の甘き盃 かぶら寿し

名産加賀の漬物

俳句 高島筍雄
絵 大野幸治

請願署名活動の在り方について

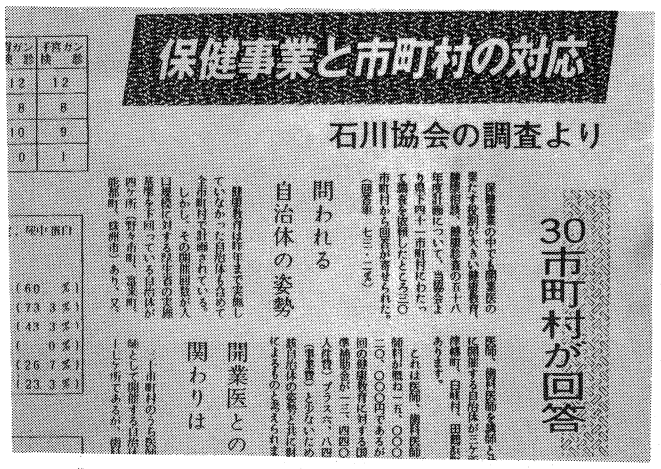
小松医師会では十月二十五日、理事会の席上、「日本医師会以外の団体及びその他の労働団体なども反対運動を展開して、先生方の許に個人的に署名をお願いしていることもあるやに聞いていますが、この際これらを差し控えて頂き、日本医師会の健保改悪反対の署名運動に絞っていただきたいと思います」の某役員が発言し、これがそのまま理事会記録として配布されたため、小松市内の医師会員の間にとまどいが出ています。

本来、請願署名はその趣旨に賛同していただけるならば可能な限り多くの人に協力を求めて国会提出するほうが効果があり、しかも一団体でなく国民各層からの請願のほうが相乗効果で請願審査に大きな影響を持つものです。

医療保険の抜本改悪という大変な事態の中で、私達一人ひとりの選ぶ道は明らかだと思います。

1983年

保険医協会トピックス



保健事業と市町村の対応

石川協会の調査より

30市町村が回答

問われる自治体の姿勢

開業医との関わりは

老人保健法で唱われた保健事業が市町村でどのように具体化され，予算措置がついているか実状調査したところ30市町村より回答（75％の回収率）

本年度地域医療対策部を発足させ，９月以降，月３回のペースで連続開催。各地で大好評。（写真は10月26日，金沢市大樋町・泉龍寺で）

老人の医療・福祉

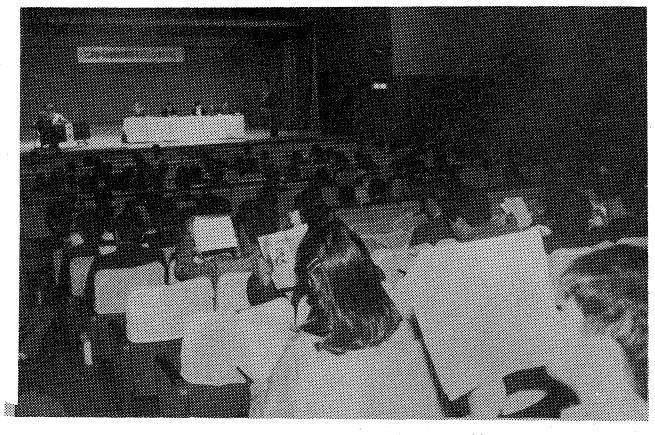
110番を開設

県保険医協会

毎月第2・4土曜

介護や入院相談

老人の医療や介護相談、福祉制度の紹介などについて十一月より電話相談を開始。すでに二十数件の相談が寄せられ、マスコミ各社にも大きく報道された。（記事は朝日新聞11月9日付）



厚生省の医療保険改革案をめぐって210名の市民とともにシンポジウムを開催。

（11月29日，県教育会館３階ホール）

妙高・杉ノ原にて家族・従業員スキーツアー。11医療機関から41名参加。

（３月20日，杉ノ原・京山荘前にて）

優生保護法改悪の危険

協会，３月県議会に請願

婦人団体から署名協力

優生保護法の改悪阻止のため県議会請願をはじめ県内のあらゆる婦人団体に請願署名協力を申し入れ。反対世論に押されて厚生省は法案の国会上呈を断念。

高間静子医療短大助教授をお招きし「医療従事者の心構え」と題する講演会を県内５会場で連続開催。82医療機関より605名が参加。大盛況。（６月16日，輪島市農協会館にて）

100号記念・座談会

保険医新聞

昨日，今日，明日

求めるアイディアマン

紙上討論

行司役に

真夜中の医心凡語

昭和50年７月の創刊以来，毎月欠かさず発行してきた本紙100号を記念して編集部一同で座談会。（５月31日）

老人の医療・福祉110番
毎月第2、4土曜開設

石川県保険医協会では、十一月より毎月第二、第四土曜日（午後二時～七時）に、病気で寝たきりの老人や介護にあたる家族の悩みなど、電話で相談にのる「老人の医療・福祉・一一〇番」を開設した。

早くも十八件の相談

これは、協会が老人の地域保健医療の充実へむけた実践であり、①ことし二月に施行された老人保健法が、窓口負担の導入をはじめ、老人診療報酬等の医療内容の年齢による差別など老人の健康と家族の生活に深刻な影響を与えており、②老人の入院拒否や退院要請で困っている例がマスコミなどを通じ明らかにされる中で、同法の矛盾よりも、こうした怒りが、医療機関にむけられており、開業医に対して少なからぬ不信感が生まれていること。③協会がこうした問題に対処し、住民との対話の場として、「健康なんでも相談」などの健康教育活動を各地で開いているが、寝たきり、呆け老人など「相談」に出て来れない人ほど深刻な悩みをかかえていること。④ことし六月に全国老人福祉問題研究会石川県支部が五日間の「老人一一〇番」を開設したら二十四件も相談があり、常設を望む声が強かったこと―から、電話による相談を始めることにした。

相次ぐ深刻な悩み
（マスコミ各社も大きく報道）

これまで二回で十八件の相談があり、会員の専門医や医療ソーシャル・ワーカー、事務局員もひっきりなしの応対で、「悩みをかかえている人がこれ程多いとは」とつめかけた報道陣もクギづけになった。

相談内容は、大きく分けて病状相談六件、制度紹介五件、入所・入院相談三件、医療費問題三件、結婚相談一件で悩みごとが多岐にわたっていることを物語っている。

病状相談では、「かかっている医師に聞きにくいので」「医師がよく説明してくれないので」とする人が多く、医師と患者の間に垣根があることをうかがわせるが、最終的には「主治医とよく話し合うこと」で安心するケースも多く、「日常診療で患者さんがわれわれをどう診ているのか、よい反省材料となった」とは、応対医師の感想である。

知られていない福祉サービス

意外と多いのが、せっかく設けられている制度を知らずにいるための悩み。典型的な例として、寝たきり老人を短期に預ってもらえるショート・スティ制度で、「実家の父が倒れ、行ってやりたいが、交通事故で寝たきりの母がいるので困っている」といった主婦の相談が三件もあり、「そんなありがたい制度があるのですか。さっそく申し込みます。」と喜んでいただけた。

また脳卒中で倒れた妻を十三年間も付添看護している七十一歳の夫から「保険で付添看護料の請求できないか」という相談に、現行では不可能なため、看護の苦労を激励するのが精一杯の回答だった。

これら切実な声に代表される老人・家族の姿から、よりよい老人の地域保健医療の充実のために協会が率先して不十分な制度や法の改正を働きかけていくことが重要である。

その意味で、深刻な老人問題を気軽に相談し、解決の手をさしのべる「老人の医療・福祉一一〇番」の常設をいま、協会をあげてとりくんでいる。

出席した医師自身も患者ニーズの勉強の機会に（11月22日、犀川農協支所）

次から次と質問が飛び出して
▶第16回健康なんでも相談◀

第十六回健康なんでも相談を十一月二十二日夜、犀川農協支所で開いた。

協会より相談医として、小坂牧子、上野宏郁、西村邦雄各先生、犀川校下老人会、犀川農協婦人部からは二十二名の参加があった。

始めに司会の小坂先生より保険医協会の紹介と健康なんでも相談を開くにあたっての挨拶があり、次に西村先生より、「成人病の予防と治療」というテーマで、「長寿村の食生活十ケ条」や「ガン予防十二ケ条」など分かりやすい図表を使って講演が行われた。

特に働きざかりの夫をかかえた中年のご婦人が多く、成人病の予防の心得や、更年期障害によい食事法などの講義に真剣にメモを取る姿がみられた。

懇談では、婦人病に関するものが最も多く、乳ガン、子宮ガンの早期発見、予防法、更年期障害等、次から次へと質問が飛び出し、出席医師がひとつひとつ丁寧に回答にあたった。

最後に、「老人の医療・福祉一一〇番」の紹介が司会よりあり、「今日の話で相談できなかったことでも何でも気軽に電話して下さい」と述べて散会した。

参加者からの反響
健康相談は心と身体の新薬です

十一月八日午後七時三十分、私達五郎島婦人会は一年の行事の一つとして、健康相談を行ないました。整形外科より三秋先生、内科より高松先生を迎え、約二時間、先生方のユーモアを交えたお話に時を忘れて話合いを致しました。

私達専業農家にとって現在最も深刻な疾病は、男女を問わず腰痛、ヘルニア、神経痛等であります。従って当然質問もこれらに集中しましたが、先生方のわかりやすい返答にひと安心し、又同時に病気に対する心構えをも教えられました。

人間というものは、身体のどこかに支障をきたしますと、忙しさのため病院へ行くことができない場合、時として最悪の状態を想像して一人くよくよ悩んだりするものですが、先生方のお話を聞いておりますと半分は自分自身が病気を重くしていることに気が付いたのです。

病院では訊けないお話を先生方を囲んで楽しく話合いが出来るというのは、心と身体の新薬です。

今後、機会があれば是非もう一度、健康についてお聞きしたいと思います。

明日の活躍と幸せのために。

（五郎島婦人会会長　宮下幸美）

医学専門用語はなるべく少なく

長生きや健康のことは私どもの一番の関心事で、いつの寄合いでも必ずその話が出ます。今回、保険医協会の先生方の健康相談に参加させていただき、一同感謝している次第です。

ただ、内科の先生からスライドで「老化予防と健康管理」という話がありましたが、一般的で、医学専門用語が多く、「本態性〇〇〇」といわれてもさっぱりわからないし、私ら老化の原因やメカニズムなど全くといっていい程、関心ありません。むしろ老化の予防には、どんなものを食し、どんな養生をしたらいいのか、これから寒くなるし、冬にむけて何を注意したらいいのか、そんな私らの今日からの生活に役立つ身近かなお話を詳しく聞きたかったです。その先生は、予防と健康管理の話に移っても、何十枚というスライドがぎっしりつまった字面ばかりで私ら目の弱い老人には酷です。「高血圧の予防、食事法」などは分かりやすい絵とかマンガを入れるなど工夫が必要ではないでしょうか。

テーマの設定時に、受講する側が、老人会である場合など、年齢とか、内容のきめ細かい配慮を宜しくお願いします。

「健康で長生きを」が老人の願いであり、「健康なんでも相談」を待ち望んでいる老人クラブは、たくさんあると思います。地域の健康増進と普及にますます貢献されることを期待します。

（新保本同仁会副会長　梅木権之丞）

◎十二月四日開催。

＜保険診療の知恵＞

血管の伸展性検査　100点

動脈硬化症，高血圧症患者の動脈壁の伸展性（弾力性或いは硬さ）を脈波伝達速度によって求める検査である。

保団連研究担当者会議から

研究会を討論の場に

理事　西村邦雄

「新しい開業医医療の創造をめざして」をメインテーマとして、名古屋市チョダビルに三十三名が参加して、研究担当者会議が開かれました。老人保健法が施行され、いよいよ厚生省の医療費抑制策が確実に推し進められている今日、増々開業医は自分の診療内容を向上させていかなければなりません。そのためにも研究会活動をより充実したものにする必要があります。

まず西野保団連常任幹事より基調報告があり、疾病構造の変化・医療諸制度の変革・医師の増加・大病院の増加などの情勢の変化を正しく把握して、研究会としても日常診療内容の向上をめざすばかりでなく、チーム医療・保健事業・住民を対象とした健康教育にも対応できるような内容を盛り込んだものにする必要があるとの指摘がありました。

次に特別報告として、石川協会より五十八年度の研究会活動を報告しました。中規模の協会としては活発に研究会活動をしていることが評価され、超音波断層撮影装置の実技講習会や、医療従事者のための講習会には各協会より高い関心が寄せられました。

また兵庫協会からは、研究会活動を活力あるものにするには、①理事会をあげて研究会活動に取り組む。②会員の要求にこたえる内容で協会独自のものをめざす。③研究会を討論の場にすることが大切だとの意見が出されました。

ついで各協会の経験交流・討論に移ったのですが、各協会ともテーマや講師の選定、参加者の確保に苦心していました。

京都協会では、研究会案内書に保険請求便利メモを載せ、研究会の後半にはレセプトかんふぁらんすをしており、大阪協会でも研究会の前に審査問題を討議するようにしていました。保険医協会の研究会の出発点が、レセプト返戻に対応するための診療内容研究会であったことや、厚生省の医療費抑制策の一環として、レセプトの審査がこれから一層厳しくなることが予測されることから、今後、研究会で審査問題を取り上げざるを得ないと思いました。

研究会にスポンサーをつけるかどうかも問題になりましたが、約半数の協会でスポンサーなしで研究会を開いていました。結局スポンサーをつけるつけないは各協会の判断に任せるしかないという結論になりました。

（十一月六日）

研究会報告

内科診断学シリーズ(3)

身体所見のとり方

金沢大学医学部第一内科
池田孝之 先生

今回は池田先生に身体所見のとり方の残りと誤診しやすい疾病の留意点について話していただきました。以下にその要旨をまとめておきます。

腹部では視診より触診が重要となる。まず肝・腎・脾・腫瘤が触知しないかをみる。回音部の触診、腎の叩打痛の有無も大切である。

〔主訴と疾患〕

①頭痛。頭痛の性質・部位・強度・随判症状に注意する。忘れてならないものに慢性硬膜下血腫がある。

② black out 起立性低血圧によることが多く、一過性のものと慢性のものがある。

③ drop attack 脳底動脈に病変のあることが多い。

④ fainting attack 軽度の起立性低血圧によるものと徐脈によるものがある。

⑤意識消失。心臓性のもの、てんかん、脳血管病変などによるものがあり、五〇才以上で出現したものは鑑別が特に重要。

⑥貧血。血色素量も必ず計ること。溶血性貧血・白血病をたえず念頭におくこと。

⑦項部硬塞。神経循環無力症にもみられ、コントールが効く。

⑧口渇。糖尿病の他に、老令者にみられる唾液腺の機能低下によるものがある。

⑨食道異物感。食道痙攣によるものが意外と多く、ヘルベッサーが効く。

⑩動悸。労作性のものとして、貧血・低血性・脚気心がある。非労作性のものとして、甲状腺機能亢進症・過動心・不整脈によるものがある。

⑪胸痛。心臓性のものは鑑別が重要。ヒステリーもまれにある。

⑫しびれ。若い女性なら過呼吸症候群、年輩の者なら切迫性の脳硬塞を考える。

（学術部）
（十一月十八日）

専門部紹介

審査改善に功績

保険部

保険部の仕事は端的にいえば、保険医療に関する諸問題（審査問題等）に対することといえると思います。しかしよく考えてみますと協会の存在意義とかなりの部分で重複する点が多く、一つの部としての独自性に欠けるきらいがあります。

その活動の歴史の中から重なものを拾ってみますと、①レセプトかんふぁらんす、②保険診療の知恵、③新規開業医との保険懇談会、④点数改定資料の速報及び説明会、⑤保険診療の実態調査等があげられます。

中でも「レセプトかんふぁらんす」は当初、返戻レセプトを材料としたため各方面に多くの反響を呼び、石川県の審査問題の改善に少なからず功績があったと自負しています。それにくらべ最近の保険部は何をしていると各方面からお叱りをうけております。

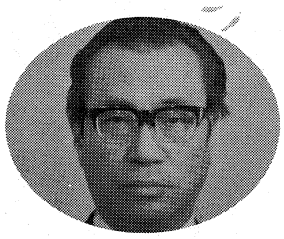
しかし当時と医療事情も複雑化し、医療標準、老人医療が問題となり、又診療側にもさまざまな地域差が生じ、その要求もますます多様化してきた昨今、以前のように理不尽な返戻に反論すればことたれとするだけでは問題の解決にならなくなってきました。何から手をつけたらよいのか、どう対処したらよいのかと模索しているというのが本音です。読者からの積極的なアドバイスをお願いいたします。又、飛込んで新風を吹きこんでやろうという先生があらわれれば大歓迎いたします。目下、内科系の部員を募集中です。

最後に本年のメンバーを御紹介いたします。

部長　筑田正志
副部長　長基顕
〃　藤田士郎
部員　湯浅幹也
井口英樹
加藤日出治
油尾俊一
福田学
畷稀吉
能登康夫

生涯教育の第一歩

金沢市　福島順二



ベッドサイドの内科診断学について拙文をということでペンを取りました。

小生の私事ながら昨年来一ケ年心筋硬塞、胃ポリープ、吐血、入院・大動脈冠バイパス手術と年令と身体の曲り角にめぐり合せました。

その間、保険医協会の休業保障制度の恩恵に浴し、かつ最近、近代医学の数々。

し、不幸中一命を諸先生方の技術と病者への誠実と真情に支えられ、ベッドサイド教育、ICU、CCU等の数々の勉学を医者として、かつ又病者としての両面を体験することが出来、大いなる資産として脳細胞の中に貯えることが出来ました。将来、いかに活かし駆使することの出来る可能性を残されたことを余命の中に楽しく夢見ているのであります。

かけがえのない命と使命を担った運命とを考え、貴重なる時間として一期一会の意味を噛みしめています。その第一歩として新しく保険医協会の研究会に体の許す限りの参加を決意して生涯医学教育への遅れを取り戻して現代の更に近代の医学を追求することに徹したいと歩み出しています。

研究会参加者は十数名ですが、晴れた夕、雨の夜、氷雨の暗夜、医学とその実際と最新の治療、薬剤の分類と適応臨床例についての指導、討議等ベッドサイドならぬ炉辺談話的雰囲気に真摯な応答に時間の経過も忘れ、司会者の助言ではじめて意識するほどであります。

会を終え帰途の満月を仰ぎ、又数多の星空に目をはせ、暗雲重なる夜空を帰路につく時、充実感と明日への診療への意欲をいただき、三々五々と散って行く会員と講師の先生方の健康と努力のますますの充実を祈って止まないのであります。

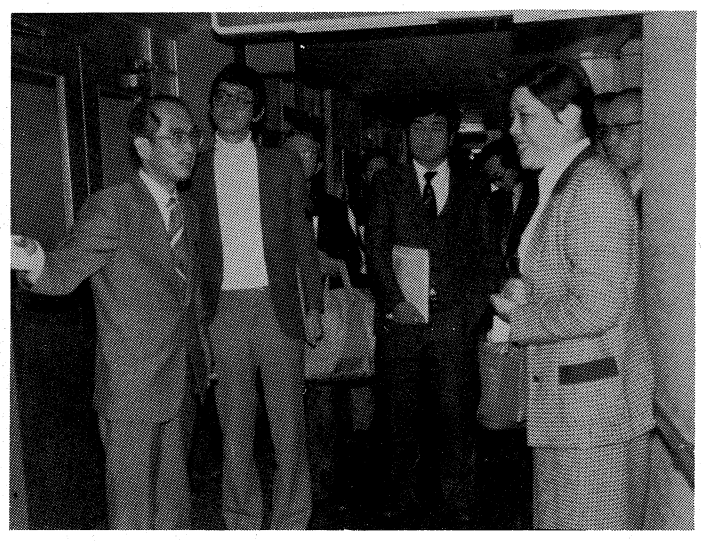
第137回保険診療研究会

テーマ　診断のすすめ方
—誤診しやすい疾病—
講師　金沢大学第一内科　池田孝之 先生
とき　1月27日(金) 午後7時半
ところ　石川県医師会館三階

老人福祉施設を見学して

陽風園―百々鶴荘―福寿園
心の通った見学会

野々市町　喜多　徹



陽風園の案内をしていただいた中川課長（左）と参加者，左から２人目が喜多先生

このたび協会主催の老人福祉施設見学会に参加しました。参加した理由は、今日ほど老人福祉・医療の問題の重要性が叫ばれている折、そのベースとなる知識に私自身余りにも乏しく、少しでも認識を深めたいと思ったからです。

当日は昼食をはさんで、三ケ所の施設を見学し、それぞれの施設の責任者より、丁寧かつ卒直な話を聞くことができました。まず陽風園については、養護ホーム二四〇名、特養ホーム三七〇名収容の日本でも有数の大規模施設で、昔から生活貧困者の施療施設であった歴史的背景もあり、設備もやや古く、暗いイメージがありますが、有床診療所を付属に持ち、リハビリ室、入浴室、大講堂なども完備し、ショート・ステイや在宅寝たきり老人の入浴サービスなども取り組まれ、県下の老人施設をリードする立場にある施設と感心しました。

百々鶴荘は、県立の軽費老人ホームで、収容者に快適な生活が営まれるよう、さまざまな配慮が行き届いた施設と感心しましたが、対象があくまで「健康で、一定の経済力がある老人」に限られ、収容者自身が自分が病気になった時、ここを追い出されることを心配しているとの話は、軽費ホームには、難しい側面があることを思い知らされました。

最後に訪れた福寿園（特養ホーム）は、県下で一番新しい施設だけに、近代的な病院の病室と、孫色ない居室が完備され、それなりに快適な生活が営なまれているようですが、医療施設が付属せず、病気が重くなり要入院となると受け入れ先を捜すのに大変苦労されるとのことで、特養ホームがかかえる困難な問題の一片を認識させられました。

○

最後に、ソーシャル・ワーカーの鈴木森夫氏を囲み、おさらい会を行ない解散しました。

振り返って、今後われわれ開業医自身も老人ケアの問題を真剣に取り組まなければならないと再認識いたしましたが、そのワンステップとしてきわめて有意義な見学会であったと思いました。

最後に鈴木氏も言われましたが、政府は必ずしもこのような特養ホームなど福祉施設の充実に熱心ではなく、かけ声だけの「在宅ケアの充実」でお茶をにごそうとする姿勢については、厳しく監視していかなければならないと感じました。

（内科）

連載

窓口で役立つ社会福祉ガイド

紙オムツと理髪サービス

ねたきり老人をかかえる家庭では介護による肉体的疲労と経済的負担は大きいものです。ねたきり老人の場合は尿や便の失禁が多く、オムツ代もばかになりません。

そのため、老人世帯の経済的負担を軽減するため、紙オムツの支給制度があります。県内では、金沢市と山中町で実施しています。（表1）

また金沢市では、在宅のねたきり老人に対して理髪サービスが受けられます。ねたきり老人として登録してあると利用券が九月頃配布されています。年に一回ですが、老人の方から喜ばれています。

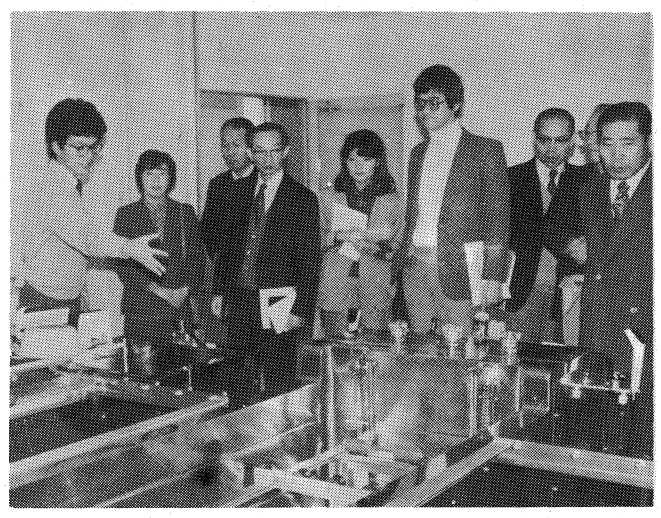
申請については、市町の老人福祉担当課で御相談ください。

〔表１〕

	紙オムツ枚数	所得制限
金沢市	１日　５枚	本人または扶養義務者の年間所得税額が４２,０００円を超えるときは支給されません。
山中町	年間　２００枚	なし

「生活の場」としての施設づくり

井沢　恵美子



福寿園の特殊浴槽について木村指導員（左端）より説明を受けているところ　（11月27日，13名が参加）

以前から是非見せていただきたいと願っていた施設でしたので、当日を心待ちにしておりました。

陽風園は門がまえもどっしりと、何となく外部と遮断された感じでした。中はこざっぱりしており、お年寄りが「陽風園にだけは入りたくない」というみじめさは感じられず、老人ホームが「収容の場」から、「生活の場」へと変わりつつあることが感じられました。ただ、施設が狭いためという説明でしたが、おむつ交換の時、ベッドのまわりにカーテンもないというのは、何とか工夫出来るのではという気がしました。

百々鶴荘は軽費老人ホームだけに一般とプライバシーが尊重されている様子でしたが、ホームのまわりにあまりにも人家がなく、やはりお年寄りだけまとめられたという感じを強く受けました。

福寿園は一番新しい施設らしく設備も立派で広々としており、職員の方々も新鮮な気持で仕事をされているように思われました。

○

今回の見学に参加させていただいて強く考えさせられたことは「生活の場」としての施設のあり方ということです。施設内の設備や職員の配置に対しても、もっと工夫されていくことでしょうが、施設が「家庭」というものにどう接近していくかということが大きな課題のように思われます。「生活の場」であるならば、お年寄りばかりを集めるのではなく、子どもや若い人たちと普段に接していける場所であったらと思います。

一日ギッシリつまったスケジュールで、久しぶりに良い勉強をさせていただいたというのが実感です。参加された先生方が、時折、以前に診ておられた患者さんと親しく面会され、心暖まる光景もしばしばあり、皆さん熱心に質問され、心の通ったすばらしい一日であったと思います。

又、機会がありましたら、大きな問題となっている「ボケ老人」といわれる人たちが多く入院されている精神科の病棟の見学も、と思います。参加させていただけたことを心から感謝しております。

（医療ソーシャルワーカー）

新刊案内

「胃・十二指腸疾患の新しい見方・考え方」
―脈境界との関連から―
（岐阜協会発行）

胃粘液除去法を基本にした色素内視鏡検査と胃X線検査の方法を紹介した小冊子。腺境界が識別できることにより、胃・十二指腸の好発病変が推定しやすくなり、腺境界近傍病変の診断も容易となる。胃分泌機能も推測できる。

（定価一、〇〇〇円）

「診療研究のあゆみ―第一集―」
（千葉協会発行）

千葉協会の診療研究会と症例検討会の要旨をまとめたもの。保険診療のしおりも掲載されており便利。牛乳の栄養知識・水と健康・食品添加物についてといった項目にもわたり、日常診療に活用できる内容となっている。

（定価一、三〇〇円）

舌つづみ

スコッチ・パブ
ロワール

我家から「オーイ」と呼べば聞こえそうな距離の「ロワール」。片町スクランブル交叉点を見おろす寿会館八階（エルビルの隣）に気楽に寄れるパブがある。ここは、若い人だけが行くところかと思っていたら、本場リヨンの一流ホテルで学んだ美味しいフランス料理が、低料金でピアノを聞きながら食べられる。そして、赤ワイン「ピアドール」がまた美味。ちなみに、先日、私の食べてきたメニューを御参考までに。

- オードブルキャピア
- 野菜スープ
- 舌平目のボンフマン
- トルネードステーキ
  フオアグラ流し
- サラダ・アスパラガス
- 苺のアイスクリーム
- メロン
- コーヒー
- 赤ワイン・ピアドール

（宮村明子）

石造りの店内はヨーロッパの古城をしのばせるメルヘンの世界

最近，取材記事が少なく，レイアウトだけでうまく作って中身のない紙面がふえていると指摘された交流集会
（11月27日，東京・野口英世記念館）

全国機関紙担当者交流集会から

生きている人間の姿を

保団連機関紙部員　木　戸　哲　也

十一月二十七日、東京新宿の野口英世記念館で機関紙交流集会が開かれた。

集会は午前の部で、方波見機関紙部長が現在置かれている機関紙の立場と、医療を取りまく情況の分析について話があり、「今重要なのは、衆議院選を目前にして、健保法改悪阻止の絶好のチャンスであるが、これをふるに利用すべきである。今や六〇万名を越すに至った署名運動も、その有効な手段の一つである」と強調した。又、最近の機関紙はどの分野でも読まれなくなってきているが、日本機関紙協会が分析によれば、①機関紙が自己本位主義（ミーイズム）に陥っている。②格好はいいが中身のない紙面が増えている。③機関紙に文化が載らなくなった。④機関紙に生きている人間の姿が見られない、等を指摘しているとの話を聞いて反省させられました。

つづいて記念講演には、全国商工新聞社の編集長・倉本鉄男氏が自己経験を通して編集の仕方・取材方法や「通信員制」など話されましたが、一般の商工業者とわれわれ医療を行なう者の間には大きなギャップがあり、改めて機関紙づくりのむつかしさを感じました。

午後の部では、本題の各協会間の交流が行なわれ、青森、長野、広島の三協会が特別報告し、編集に当っての問題点、特に記事の集め方、コラム、主張欄のあり方等、報告やら問題提起がありましたが、毎年出席し感じますことは、あまり目新しい問題や、それに対する適切な解決案もなく、今後の集会の持ち方を考える必要があります。

最後に参加した二〇都道府県の代表が順に発言し、その結論は、①出来得る限り会員多数参加の新聞に、②協会活動のないところに機関紙はない、③定期発行はそれだけで意味がある、④各協会紙は個性をもつことが望ましい、とのことで、四〇人近くの集会を閉じました。

ゆとり　余暇を語る

アマチュア無線から パソコンへ

東山一博 先生の巻

「ハロー、CQ、こちらJA9DJA、ヒガシヤマ・カズヒロどうぞ。」コールサインを頼りに今回〝ゆとり取材班〟はアマチュア無線電波に乗って、ここ松任市田中町で歯科を開業している東山先生を訪問。実はこの先生、自宅は金沢市寺地とのこと。なのに院長室には、オーディオ機器やパソコンなどの機材があり、マニアぶりをうかがわせる。早速インタビュー。

―アマチュア無線に凝っておられるとお聞きしましたが。

「ご覧の通り。（そういえば無線機器が見当らない？）こちらで開業してからは開局してないんです。でも小さい頃からこういうことが好きで、小学三年の時でしたか、真空管を使ったラジオを初めて作ったんですよ。音が出たとたん涙が出てきちゃって。」

「それがきっかけでラジオ製作に夢中になってね、中学二年でアマチュア無線の免許をとったんです。好奇心が旺盛な少年時代ですから、世界中どこでも未知のハム仲間と交信できるという魅力にもうすっかりとりつかれまして、その後、大阪歯科大学時代クラブ局にはいっていた頃、オールJAコンテストなんかに出て、コールを追って徹夜で交信しあったのがなつかしいです。」

―それ程夢中だったのにどうしてやめられたんですか。

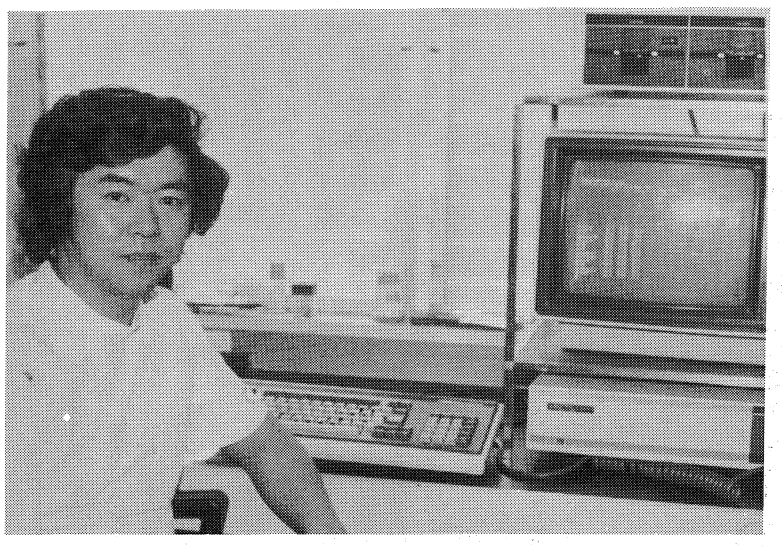
「いろいろ忙がしく、コールサインも移さねばならないということもあったけど、これかなぁ。（と机上にあるパソコンを指差す）大学六年の頃、にわかに脚光を浴びつつあったワンボードマイコンの方に僕の中にあるメカ好奇心が移ったみたいで。」

「最初は気分転換のつもりが、一度プログラム作成にとりつかれると恐しいもので、今では診療ライフへの応用を試みています。」（実際にテレビモニターにディスプレイしながら先生は熱っぽく続けて……）「たとえば、歯科矯正への利用で、セファロ写真（顔面規格写真）の患者リストを作り、計測値をパソコンでグラフィック処理することのできるプログラムを半年かけて作りました。もちろんオリジナルです。」

初めて作った真空管ラジオからコンピューターへと夢広げる東山先生。来年は、再度無線局を開設するとのこと。紙上を借りて一言。

「マイコンに興味をもっておられる先生方。お互いに診療ライフに役立つプログラムの工夫など交流しあいませんか。」（雄）

松任市田中町六二―五
東山一博（三十歳）
妻　幸代
長女　真弓



パソコンを診療ライフにも応用されている東山先生（診察室にて）